



● 会長挨拶

会長 小野 徹君

3月29日に、川奈ホテルで、伊東ロータリークラブの70周年があり、堀内満喜子ガバナー補佐、事務局の山田敏博君、私、星合幹事の4名で参加してきました。

来年5月に三島RCも70周年を迎えますので、何かの参考になると思い、報告します。一口に言って、驚きました。

伊東RCでは、長年「地域の安全・防犯、交通安全」に力を入れてきたということですが、記念式典では、記念講演の代わりに、「パネルディスカッション！」が行われ、伊東警察署の副署長、伊東市の教育部長、伊東RCの田邊会長、それに小学生の子供2人！の「パネラー」ということで、会場の一番前の席に、「ふるさと教室 チャレンジクラブ」の子供たち25名が、何もしないで、傍聴しておりました。その後、静岡県警の音楽隊の演奏があつて閉会。

祝賀会には、もっと驚きました。台湾の台北中央RCから、ほとんどが夫婦連れの、31名もの訪問団が来て、アトラクションで、その中の一人が日舞を踊り、その後、15人ほどで、台湾の現地人の民族踊りを披露しました。伊東RCの用意したアトラクションは、たった一人で行うパントマイムだけで、むしろ台湾中央RCの記念パーティーのようでした。また、伊東RCは、会長・幹事が女性ということからか？芸者も、コンパニオンもなしでした！登録料は、一人17,000円、川奈ホテルですからね。そんなことになるんでしょうか？早くも、おととしの12月から準備を始めたという70周年。「笑顔と感動でつなぐ70周年」という立派なスローガンの割には、ちょっと物足りなさがありました。しかし、こうしたやり方も、年々派手になる周年事業の、準備やカネ、というクラブの負担を減らすという意味では、参考にするところもあるかと感じました。松田君、頼みます。

また、今日の卓話は、若手のホープの石井君です。楽しみですね。以上、会長挨拶とします。

● ゲスト・ビジター

張 傑さん(米山奨学生)



● 出席報告

	出席総数	出席率	
今回	29/42	69.05%	会員総数:43名

<欠席者>

- ・江藤君 ・遠藤君 ・加藤(頌)君 ・河田君 ・木下君
- ・古口君 ・佐藤(良)君 ・杉村君 ・住本君 ・関君 ・松田君
- ・宮内君 ・山本君

● 幹事報告

幹事 星合義弘君

- ・2027年ロータリー国際大会の開催地がスペインのバルセロナに決まりました。
- ・静岡第一グループ親睦ゴルフコンペが5月19日に開催されます。
- ・本日の卓話は石井 真人君です。又、例会終了後に理事・役員会を開会します。
- ・次回例会は4月22日通常例会で、綾部国際奉仕委員長の卓話です。



クラブ会長指針

「Enjoy (Our) (Your) Rotary Life」

RI会長 フランチェスコ アレッツォ

UNITE FOR GOOD

● 会員祝事

会員誕生日：小沼孝次君

奥様誕生日：八木貴夫君

結婚記念日：石井真人君 八木貴夫君



スマイルBOX

● 小野徹君

高齢ですが、元気いっぱいの青木鶴佳さんが入会します。皆さまよろしくお祈りします。

● 石井真人君

本日の卓話よろしくお祈りします。

● 山岡修一君

静岡第1TVの“えぶり一静岡”で南三陸町の2000本の河津桜の満開を放映され、皆から「良かったネ」と電話が入りました。

● A・Dテーブル

A・Dテーブル会の残金をスマイルします。



卓話

自己紹介

石井真人君

私の幼少期は芙蓉台保育園で過ごし、杉村伸二郎先生をはじめとした多くの温かい出会いに恵まれました。その後、東京での生活を経て再び三島に戻る中で、環境の変化とともに、自分自身の立ち位置を模索する日々が続きました。

人生に大きな影響を与えたのは、年子の兄の存在です。幼い頃から「何かが違う」と感じながらも、その理由が分からないまま過ごしていました。やがて高校生の時に兄が「ブラダー・ウィリー症候群(PWS)」という障がいを抱えていることを知りましたが、それまでの過程では、周囲の視線や言葉に心が揺れることも少なくありませんでした。

静岡大学では阪神・淡路大震災の被災地の画像解析の研究に取り組み、社会課題に向き合う視点を養いました。その後、浜松市役所の防災対策課に入庁し、12市町村合併や政令指定都市移行という大きな変革期に、防災と情報をつなぐ役割を担いました。多様な立場の人々をつなぎ、合意を形成する経験は、「社会は一人では成り立たない」という実感をさらに深めるものとなりました。

浜松市役所退職後、転職となったのは、慶応ビジネススクール在学中に訪れた、ニュージーランドでの経験です。兄の障がいの国際会議(IPWSO)に同行し、同じ障がいを持つ家族と出会ったとき、私は大きな衝撃を受けました。他の先進国では、障がいのある子どもを「社会全体で支える文化」が根付いており、日本のように家族だけが背負い込むのではなく、社会全体が自然に関わる仕組みがあることを知りました。

「なぜ日本では、それができないのか。」その問いが、私の中で志へと変わった瞬間でした。

その後、松下政経塾での学びを経て、現場から社会を変える必要性を強く感じ、2014年に三島へ戻り、FNPOWER株式会社を設立いたしました。「自然(NATURE)や人の力(POWER)を融合(FUSION)し、新たな価値を生み出す」という理念のもと、地域資源と人の力を掛け合わせる事業に取り組んでおります。

三島スカイウォークにおける「FLOWER DROP」や「Kicoroの森」の取り組みでは、地域の障がい者施設と連携しながら運営を行っております。これは単なる事業ではなく、「誰もが役割を持ち、関わり合える場」をつくる挑戦でもあります。かつての兄との経験を、今後は、地域の中で、お互いを支え合う仕組みとして広げていきたいと考えております。その想いは、私自身の人生と深く結びついております。

ロータリークラブが大切にされている「奉仕の精神」は、まさにこの“支え合い”の実践であると感じております。誰かのために行動することが、巡り巡って社会全体を豊かにすると信じております。

その連鎖を地域の中で生み出していくことが、これからの私の使命です。

今後も三島という地域に根ざしながら、多様な人々が共に生き、支え合える社会の実現に向けて、一步一步取り組んでまいります。